

奥武蔵山城の北端に位置するのが大霧山です。大切山と表示された時も有ったようですがキレットを連想する地形ではありませんしファンタジックな霧を山名に用いたのかと思われます。私が登りました日は冬至も近く西高東低の冬晴れに恵まれ、山名と異なって霧の発生も無く秩父の山並みを始め浅間山や八ヶ岳連峰などの遠望も楽しめました。



小川町駅から白石車庫行きバスで橋場下車。粥新田峠に向かっての歩き出しは槻川にかかる粥新田橋を渡りかなり急勾配の舗装道路です。栗和田の集落を過ぎると道の左側に大霧山へのハイキングコースを表示した看板が立っています。行く手の山腹には黄色く枯れた秩父高原牧場（地図上では3ヶ所に同様な表示が記載されています）が見え、背景の山並みは欧州とかなり異なりますがアルプスを連想させる景観です。大樹の根が張り出した道は少し急登になったかと思うと緩やかな傾斜になり、ほどなく先ほどの県道に飛び出しますが、じきに粥新田峠へ行く道と大霧山に直接登る登山道が分かれれます。変わった峠の名称、粥新田峠は日本武尊が見晴らしの良いこの峠で粥を煮たのが地名として残ったと地元伝わっています。鎌倉及び江戸時代には小川から秩父へ米が、逆に秩父から小川へ和紙の原料「こうぞ」が運ばれるなど交易路として盛んに利用されたようです。また川越方面から秩父札所巡りの巡礼者の多くがこの峠を越えたとか。

更に明治17年11月に勃発した秩父事件では重要な役割を担ったと言われており歴史を感じさせられます。

三等三角点が設けられている山頂には横長の山名表示板が上下2枚掲げられ方角別に山名がイラスト入りで克明に表示されています。コンパスで視界の山々を確認しながら山頂での憩いを過ごし、定峰峠に向いました。

山頂のすぐ下に平坦な日当たりの良い場所が有りここで一本入れれば良かったと横目で眺め通り過ぎると、急斜面の降りが始まりトラロープが張られていて足下には岩石が露出し木の根が存在を主張していますが、それもわずかな間で終わり左側に牧場との境界に張られた有刺鉄線に沿って進みます。尾根の両側は木々に眺望を遮られますが乾いた枯葉の音を楽しみながら歩きました。「関東ふれあいの道」と彫られた標石や指道標が随所に在り

距離も明示されていて安心して歩みを勧められます。

ワンピッチで旧定峰峠に出ましたが尾根筋は新定峰峠に続いています。新定峰峠からは自動車道を歩くことになるのでここから白石集落に下山する事にしました。僅かに降ると整備された林道にでましたが200mほど歩くと右に山道が分岐していきまして山腹を巻くように付けられた路に入りました。杉林のほの暗い林間を単独行ゆえ熊との出遭いを気にしながら降ると間もなく沢音が聞こえてきて「せきり沢」に沿い順調に白石集落に降り立ちました。小川町に向かうバス停の名称は経塚です。



ここまでの行程は1日コースとして物足りませんが七重峠から堂平山を経由して大霧山へ周遊コースとして歩けば充分楽しめることでしょう。また経塚バス停から小川町行きバスの本数は極端に少ないので大霧山から橋場バス停に下山するよう逆コースにしますと皆谷からの折り返し便が使えて便利です。

コースガイド

橋場バス停→栗和田集落の上、ハイキングコースと県道の分岐→粥新田峠→大霧山山頂→旧定峰峠→経塚バス停

二万五千図：安戸

交通機関：東武東上線・JR八高線 小川町駅からイーグルバス

0493-65-3900

問い合わせ先：秩父環境管理事務所

0494-23-1511

最寄りの温泉：小川温泉花和楽湯 小川町駅から徒歩8分